

益子町立益子小学校

研究テーマ：豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育

～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～（第1年次）



研究テーマを設定した目的

「栃木県教育振興基本方針2025-教育ビジョンとちぎ-」の基本施策の一つに「人権教育尊重の精神を育む教育の充実」が位置付けられている。義務教育段階の学校教育における人権教育は「豊かな人間性や自尊感情を育成するとともに、人権の意義及びその尊重と共存の重要性に気付き、差別のない望ましい人間関係を確立することに努める態度を育てる。」をねらいとしている。

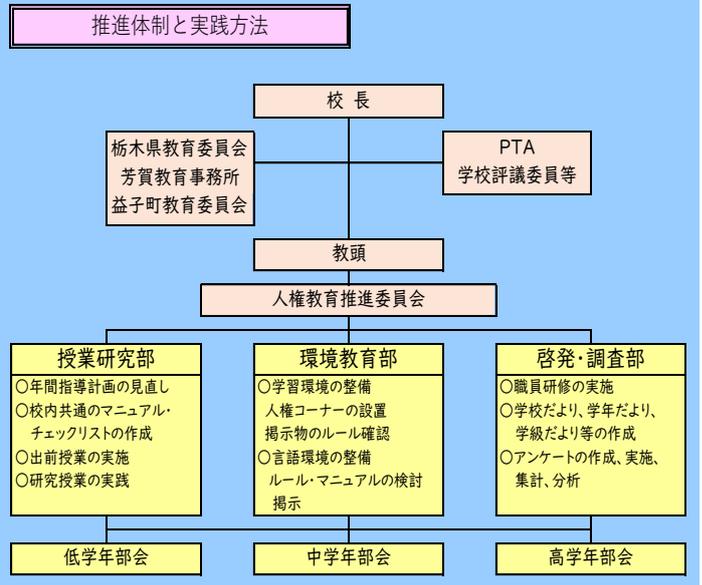
益子町では、第3期ましこ未来計画において、まちの将来像を「幸せな協働体（共同体）・ましこ」とし、学校教育目標の1つに、「しんせつで温かい人（徳）」を掲げ、個人の人権を尊重し、互いに敬愛し、規律と礼儀を重んじる正義感の強い児童生徒の育成を目指している。

本校は、明るく素直で学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。しかし、県の調査によると、「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「先生は学習のことについて褒めてくれる」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分には、よいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」という項目で県平均を下回っており、一人一人の自尊感情を高め、互いの違いやよさを認め合える人間関係づくりや学習活動、環境整備が必要であると考え、本テーマを設定した。

研究の基本構想

【実践内容】互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる

学習活動づくり	人間関係づくり	環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重の視点に立った授業づくり 直接的指導、間接的指導の工夫 道徳教育の充実 外国人の人権に関わる活動の充実 他者を尊重する学習規律の育成 情報教育 外部講師による人権学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 基底的指導の充実 学級・学年における人権感覚を高める活動の充実 異学年・縦割り班による交流活動（共遊の時間）の充実 外国人や高齢者、障害者とのふれあい活動（ボランティア活動、自然体験活動） 児童会主催による活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの実施 人権感覚を育む環境整備（人権コーナーの設置） 教師自身の人権意識に関する資質を高めるための研修 家庭・地域との関連を図った取組や広報活動 悩み相談の充実



研究の実際

月	会議・調査等	授業実践	職員研修等	保護者への啓発
4月	研究推進会議			ホームページ・各種便り
5月	研究推進会議		校内人権研修会	人権教育研修会
6月	HYPER Q-U 調査 第1回児童意識調査			
7月	HYPER Q-U 結果分析			個人懇談
8月	研究推進会議		校内人権研修会	
9月		指導案検討会		
10月		出前授業（ユニセフ）	道徳示範授業（中山先生） 先進校視察（黒磯小）	人権だより
11月		第1回授業研究会	研究発表会への参加	
12月	第2回児童意識調査	出前授業（アイヌ）		
1月		指導案検討会		
2月	研究推進会議	第2回授業研究会 高齢者施設との交流		人権だより
3月	研究推進会議			PTA 広報誌

取り組んだ人権課題

- ・子ども
- ・女性
- ・高齢者



- ・障害者
- ・同和問題
- ・アイヌの人々

- ・外国人
- ・インターネット
- ・性的指向、性自認



取り組んだ人権課題の実践例（1）

子どもの人権

5年

総合的な学習の時間



目標・人権教育のねらい

- ・茨城県ユニセフ協会によるワークショップを体験することで、ユニセフの活動やSDGsなどについての理解を深める。
- ・貧困や戦争などがもたらしている人権問題、特に児童労働や未就学、病気などについて、活動を通してその問題点に気付く。
- ・話し合いを通して、問題解決に向けた手立てを考えるきっかけとする。

工夫した点

- ・ワークショップ型の活動とすることで、多様な意見が出されるようにした。
- ・意見は付箋に書いて掲示し、どんな意見でも認め合う雰囲気の中で活動した。
- ・茨城県ユニセフ協会のスタッフの方々に来校いただき、活動を実施した。絵本の読み聞かせやグループ活動の進行、資料の説明などを実施していただいた。

取り組んだ人権課題の実践例（2）

障害者	4年	総合的な学習の時間
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・人々が支え合う仕組みや地域のために働くことの意義等に気付く。 ・地域の様々な人の視点から地域を見つめることで課題を見つけ、情報を収集し、自分たちにできることを考えて発信したり、実践したりすることができる。 ・「働く」ことや「自分らしく生きる」ことが希望や夢をもって生きていくことにつながることに気づき、人のために役立つことを実践しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・車いす、アイマスクなどの体験活動を通して、障害があることの不自由さや生活していく上での工夫について実感できるようにした。 ・益子町社会福祉協議会の方に来校いただき、体験活動を実施した。

取り組んだ人権課題の実践例（3）

アイヌの人々	6年	社会科
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の歴史や、差別について知る。 ・アイヌの文化に触れ、身近に感じるとともに、私たちの文化とアイヌの文化両方を大切にしていこうとする態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書では短い文章で触れられているだけなので、実際に多くの資料や実際の道具などを用意していただき、実感を伴った理解が図れるようにした。 ・宇都宮大学地域デザイン科学部、若園雄志郎准教授およびアシスタントとしてボランティアの学生に来校いただき、指導していただいた。

取り組んだ人権課題の実践例（4）

同和問題	6年	社会科
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・洗染一揆の目的や経緯について理解する。 ・厳しい差別を受けた人々の思いや願いを考慮することができる。 ・差別に苦しみながらも、優れた技術で社会を支えてきた人々や、勇気をもって差別に立ち向かった人々の思いや願い、生き方について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・差別されてきた人々の功績について取り上げ、優れた技術によって社会に貢献してきたことを理解できるようにした。 ・不当な命令の取り下げを求めて立ち上がった人々の思いや願いを考慮することができるようにした。 ・事前に斉藤隆介作「ペロ出しチョンマ」の読み聞かせを行い、一揆を企てた者への処罰の厳しさが実感できるようにした。

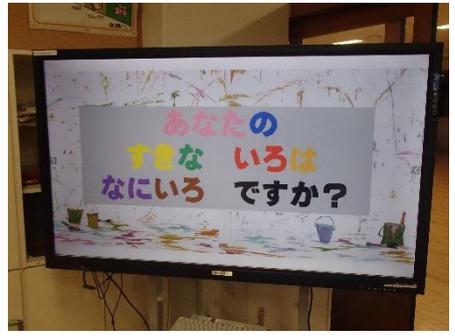
取り組んだ人権課題の実践例（５）

外国人	２年・４年	道徳科
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・他の国の人々とも心が通じ合うことのうれしさに気づき、他の国の人たちと進んで親しくしようとする態度を育てる。 ・他の国には日本と違う生活や文化があることを知り、それらの意味を理解し、他の国の伝統や文化に関心を持って親しもうとする態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した同じ価値項目の教材を示すことで、振り返り、学びを生かした学習活動が展開できるようにした。 ・登場人物の立場に立つことで、自分ごととして課題を捉え、思考を深めることができた。

取り組んだ人権課題の実践例（６）

インターネット	３年	学級活動
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使う上で守らなければならない決まりを理解し、インターネットの適切な活用方法を理解する。 ・相手を傷つけたり、迷惑をかけたりしないよう考えながらインターネットを使おうとする態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信者、受信者双方の立場に立って考えるようにすることで、共感的に理解できるようにした。 ・実践カードを活用し、継続して自己評価を行ったり、必要に応じてめあての見直しを行ったりできるようにした。

取り組んだ人権課題の実践例（７）

性的指向・性自認	全学年	特別活動（集会活動）
		
目標・人権教育のねらい		工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間に合わせて集会（ミニ・フィルムフォーラム）を行うことで、豊かな人間性や自尊感情を育てる。 ・性的マイノリティについて考え、差別のないよりよい人間関係を醸成することに努める態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムフォーラムとすることで、コロナ禍でも大人数が集まることなく、学級ごと、都合のよい時間に集会が行えるようにした。 ・色の好みという子どもたちにとって身近なテーマを設定し、自分事として考えることができるようにした。 ・男性教師がピンク色が好きであることを伝え、安心して好きな色を選べるようにした。

授業研究部の取組

年間指導計画の見直し

道徳科、学級活動、総合的な学習の時間を中心に系統性の確認を行った

校内共通マニュアルの作成

グループ学習マニュアル

「学び合い」のグループ学習の約束

1. 顔を見合おう。
2. すぐに話を始めよう。
3. 全員や、友達の良い反応を見ながら話そう。
4. よい考えについて話し合おう。
5. 自分たちの意見をまとめよう。
6. 全員が理解できるような意見を目指そう。

⑧:思いやりをもって ⑨:すばやく ⑩:しつかりと

人権チェックリスト

授業等で配慮したい人権尊重の視点 チェックリスト

※「授業チェックシート」と併用してチェックを行うください。
例 ○:十分行っている △:要慮して行ってきた

項目	1月	2月	3月
教材や資料			
学習活動			
評価			
その他			

研究授業の実施

4年 道徳科



5年 算数科



環境教育部の取組

学習環境の整備

人権コーナー



人権宣言・標語



言語環境の整備

話し方・聞き方のルール

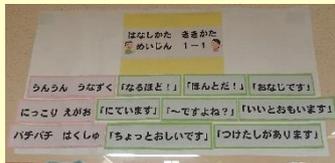
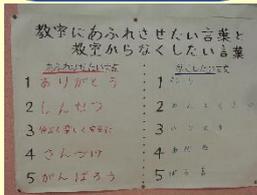
やさしい話し方

- 1 聞いている人を見て (目とおへそを向けて)
- 2 にこやかな表情で
- 3 聞きやすい声の大きさと
- 4 ていねいな言葉で
- 5 相手の反応を見ながら (~ですよ、ここまでいいですか?…)

あたたかい聴き方

- 1 話している人を見て (目とおへそを向けて)
- 2 にこやかな表情で
- 3 うなずきながら
- 4 反応して (はい、わかりました、同じです、なるほど…)

教室掲示より



啓発・調査部の取組

研修の実施	人権だよりなどの作成	アンケートの作成・分析
<p>研修会（職員・保護者）</p> 	<p>人権だよりの発行</p> <div data-bbox="571 315 986 495"> <p>益子小学校人権だより</p> <h2>な か ま</h2> <p>第2号 R5. 2. 3</p> <p>本校は、令和4年度と5年度、文部科学省から「人権教育に関する研究校」としての指定を受けています。今年度は、学校課題を「豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育～互いの違いやよき差の認め合い、相手の気持ちを考えよう行動できる児童の育成～」をテーマに設定し、児童、教職員、そして保護者の皆様とともに、人権に関する課題を定め、よりよい児童の育成、よりよい学校・家庭・地域づくりにつなげていくために様々な取り組みをしています。</p> <p>その一環として人権教育に関する本校の活動を伝えるための人権だよりを発行します。第2号では、ユニセフ出前授業、白鷺大学から来校して下さった中山先生による道徳の授業、校内研究授業の様子を紹介します。</p> </div> <div data-bbox="571 501 986 667"> <p>ユニセフ出前授業「貧困と児童労働について」(10/21)</p>  <p>5年生の総合的な学習の時間の一環で、「貧困と児童労働」について学習しました。絵本「そのこ」をとおして、一人一人が感じたことや考えたことをグループワークで共有しました。「世界には豊かではないけれども大切なこと」や「親の自分の生活が当たり前のものではない」ということに気づき、視野を広げることができました。</p> </div>	